

へえ、さすが余裕やなあ

しっかり、六時間あった。

それでも、一時間でも、ない方がまし。

授業時間中、僕は、やはり、兄貴のことが気が気でなかった。

「頑張ってくれ、失敗するな。」と思いつつも、「失敗させないでくれ。」と心で神に祈るのが、なぜか、はずかしい思いだった。

神様の前に、ひざまづき祈る僕を見て、神様がニッコリしている様子を想像した。

いつも、神に対してひややかな発言をする自分が、なにか、きまりが悪い思いだった。しかし、そう思えど、本当に誰かに頼りたい気持ちである。

家に帰ると、兄貴も、しばらくして、帰ってきた。

兄貴の表情から、失敗したかどうか知らない。

ガックリ来て、気力を失ってはいない様で安心した。

そこで、思い切って、僕は兄貴に聞いて見た。

「試験、どうやった？」と。